

## ●古賀敦子

フランス、ドイツに留学中で、日本では初のフルート・リサイタル。ピアノは小林道夫で、バツハから現代まで7曲を演奏した。彼女のフルートの演奏には、作品への徹底的な追求の跡がみられる。その演奏姿勢は常に真摯で集中力があり、出す音一つ一つに熱さがある。バツハの「ソナタ・木知調BWV1034」にしろシューベルトの「へしほめる花」による序奏と変奏」にしろマルタンの「バラード」にしろ、その姿勢は一貫している。技術的にはしっかりしており、音色はあえて派手ではなく中音域を大事にした落ち着いた

たもので、音楽の運びにも自然な呼吸がある。注文するとすれば、作品の個性を浮き彫りにするためのさらなる音色と表現の多彩さといふことであろうか（9月12日・福岡銀行本店大ホール）。

### ◀フルートの古賀敦子



### 里帰りリサイタル

福岡市出身でドイツ在住のフルート奏者、古賀敦子が12日午後7時から、福岡銀行本店ホールでリサイタルを開く。

古賀は桐朋学園高校音楽科を経て、渡仏。パリ国立高等音楽と変奏」、カール・ライネッケ院とその大学院でフルートと室内楽を学んだ後、今度はドイツのケルン国立音楽大学に入り、現在その大学院に在籍している。

心に残るフルートや室内楽、オーケストラとの共演など幅広い活動を行っている。

リサイタルの曲目はシューベルトの「へしほめる花」による序奏と変奏」、カール・ライネッケのソナタ「ウンディニス」、朝田文紀「フルートソロの為の「ド」ほか。ピアノは小林道夫。

チケットは2000円。問い合わせ先はNASSAコーポレーション（092・211・2401）。

12日・福岡銀行本店大ホールに、パリ・ルーティス・フルートコンクールのマリヤ・カナルス国際コンクールの2位、ルー・ミアのジュネス・ミューシカール国際コンクールの位などの受賞歴があり、ヨーロッパを中

る。1990年にイタリアのイソラ・デ・カプリ国際コンクールの2位に入ったのを皮きり